

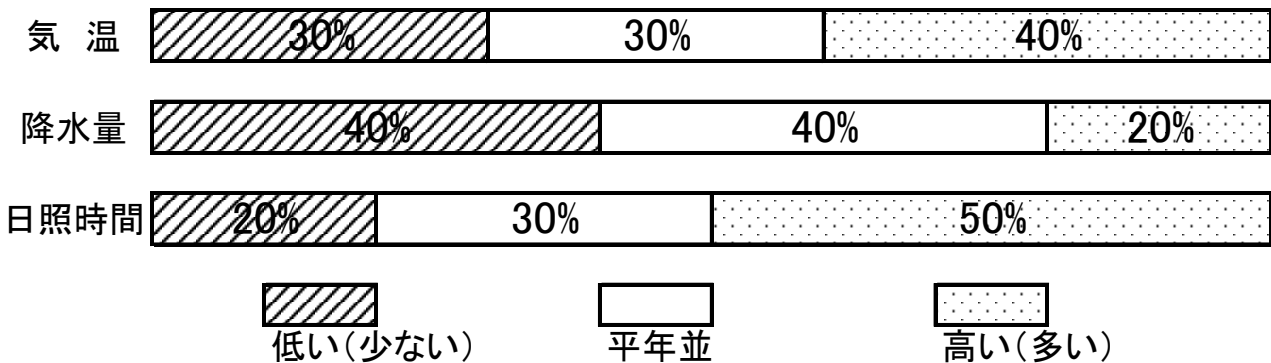
平成24年度 病害虫発生予察情報 発生予報第3号（5月後半～6月前半）

平成24年 5月21日
島 根 県

予報の概要

区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	やや少ない
		赤かび病	やや多い
	イネ	うどんこ病	やや少ない
		ヒメトビウンカ	平年並
果樹	ナシ	ニカメイチュウ	少ない
		イネミズゾウムシ	平年並
		黒斑病	やや少ない～少ない
		黒星病	やや少ない～少ない
		シンクイムシ類	平年並
野菜	カキ タマネギ	ハマキムシ類	やや少ない
		ハダニ類	やや多い
		カキクダアザミウマ	平年並
		ポトリクス属菌による葉枯れ	少ない
		べと病 腐敗病・軟腐病	やや少ない～少ない やや多い～多い

中国地方1か月予報(5月19日～6月18日・広島地方气象台5月18日発表)
＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)＞



A. 普通作物

1) ムギ

(1) さび病類（小さび病、赤さび病）

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや少ない

予報の根拠

① 5月11日現在、巡回調査地点において発生は確認されていない（平年発生圃場率3.9%）。

② 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 赤かび病

予報内容

発生地方

県内全域

発生量

やや多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における発生量は、発生圃場率24%（平年3.1%）、発病穂率0.31%（平年0.07%）と平年に比べてやや多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) うどんこ病

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 やや少ない

- ①5月11日現在、巡回調査地点において発生は確認されていない（平年発生圃場率1.3%）。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ

(1) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察灯への飛来は、5月第4半旬まで認められない。
- ②4月のすくい取り調査では、捕獲数は0.54頭/20回振（昨年同期0.42頭）、発生圃場率は32.1%（昨年同期12.9%）で発生量は昨年と同程度である。
- ③4月に採集した越冬世代成幼虫のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は0%（H23年0%、H22年7%）で昨年と同様に低い。
- ④向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 少ない

予報の根拠

- ①予察灯への初飛来は、5月第2半旬で平年並みである。フェロモントラップへの飛来は、5月第4半旬まで認められない。
- ②前年の第2世代成虫発生量は平年比3.9%で、越冬量は少ないと考えられる。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県内全域
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ①予察灯への初飛来は、4月第6半旬で平年並みである。
- ②前年の新成虫の誘殺数はほぼ平年並みであり（平年比56%）、越冬成虫量は平年並みと考えられる。
- ③向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 県内「二十世紀」栽培地帯
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

- ①5月11日の巡回調査（安来地区）では、発生量は平年と比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

- ① 5月11日の巡回調査（安来地区）では、葉での発病は確認していないが、幼果での発病は9圃場中1圃場で発生を確認している。発生量は平年と比べてやや少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月16日で平年並みである。
- ② 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数は平年並み、越冬量は平年並みと考えられる。
- ③ フェロモントラップ（安来市）でのナシヒメシンクイの誘殺数は平年並みである。
- ④ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 やや少ない

予報の根拠

- ① 初飛来日は4月16日で平年並み。
- ② フェロモントラップ（出雲市）でのハマキムシ類の誘殺数はやや少ない。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県内ナシ栽培地帯
発生量 やや多い

予報の根拠

- ① バンドトラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。
- ② 5月上旬の巡回調査（安来市）では主要種はクワオオハダニで寄生花そう率は14.6%（平年2.8%）とやや多い。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生に特に抑制する要因とはならない。

2) カキ

(1) カキクダアザミウマ

予報内容

発生地方 県内カキ栽培地帯
発生時期 平年並
発生量 平年並

予報の根拠

- ① 5月上旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。
- ② 5月8日の巡回調査では巻葉被害が認められた。
- ③ 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

C. 野菜

1) タマネギ

(1) ボトリチス属菌による葉枯れ

予報内容

発生地方 県内全域
発生量 少ない

予報の根拠

- ① 巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率0.0%（平年8.0%）、発病株率0.0%（平年0.3%）と平年に比べて少ない。
- ② 向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(2) ベと病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや少ない～少ない

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率19.2%（平年16.9%）、
発病株率0.1%（平年1.1%）と平年に比べてやや少ない。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容
発生地方 県内全域
発生量 やや多い～多い

予報の根拠

- ①巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率65.4%（平年61.4%）、
発病株率6.0%（平年1.6%）で平年に比べて多い。
- ②向こう1か月の気象は本病の発生にやや抑制的である。

【参考となる事項】

※最新の農薬登録状況

独立行政法人 農薬検査所ホームページには、農薬の登録や失効に関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。

農薬検査所のアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

農薬の安全使用の徹底を！

- ・農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

ホームページ

<http://www.pref.shimane.lg.jp/nogyogijutsu/byougaityuu/>

e-mail boujyo@pref.shimane.lg.jp